

平成28年度第2回橿原市子ども・子育て会議 会議録

日時：平成29年2月9日 午後3時～

場所：橿原市保健福祉センター北館4階

視聴覚研修室

【出席委員】 天根委員・伊瀬委員・上田委員・大原委員・喜多委員・亀甲委員・小西委員
米田委員・辻之内委員・藤田委員・三浦委員・森田委員・吉岡委員

【事務局】 岡崎副市長・吉本教育長・吉田健康部部長・辻岡教育総務部部長・竹本健康部副部長
村井健康部副部長・岸本健康増進課課長・井原こども未来課課長・辻本子育て支援課課長
岩本教育総務課課長・戸田学校教育課課長・吉田教育支援課課長
森下こども未来課指導主事・吉田こども未来課課長補佐・溝上こども未来課子ども子育て
係長・小川こども未来課主査

【傍聴者】 0人

1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 新任委員紹介

4. 議事

(1) 基本目標別事業計画の進捗状況について

事務局 資料1について説明

(吉岡会長)

各課から非常に膨大な資料があり、説明をしていただきました。中々理解をするのが難しかった部分もあると思いますので、委員それぞれの専門の立場から意見をいただいたら全体的になるかと思えますので、時間の許す限りにはなりますが、ご指摘とかご意見などをお願いします。

(天根委員)

この事業をどうしなさいという指摘ではなく、計画して実施して報告してそれが良いかどうか結果を点検、反省して、その次にくるのはアクションです。アクションを考えるための資料と言えませんが、行政の施策を今後の課題の中に入れていただいて市としてこうやっていきたいという意思表示をしていただいたら我々としても言いやすいです。特にニーズを捉えてより良い対応をとというような抽象的な表現が多いので、今どう捉えているかを示してもらえたらありがたいです。総評的な意見です。

(吉岡会長)

今後も含めて具体的な課題の一つでもこのような事に取り組んでいますと言っていたら意見を言いやすいし、この報告書と見直しのまとめ方という部分で課題も言っていたと思います。

(森田委員)

5 ページの施策 NO 8 「病児・病後児保育の充実」について地域を広げたと言われていましたが、定員自体が少ない中地域を広げたというのは、利用が少なかったからですか。それともそれ以外の地域からも要請があったから広げたのですか。経緯を教えてください。

(吉岡会長)

地域を広げた経緯を具体的にお願いします。

(事務局・井原)

病児保育につきましては今定員 4 名で進めています。高取町、明日香村の近隣地域からお仕事にいられている方から病児保育を利用できないかと以前からお問い合わせが出ていました。もちろん定員の枠の中で利用していただく形になります。たくさんの人数ではないので、現在のところ、市内の方に影響が出ているという状況ではありません。今後の課題として来年度もう少し、定員 4 名となっていてところを 6 名くらいにする形ですすめていきたいと考え、吉川医院の方からも話がありましてそれに向かって進めているところです。

(吉岡会長)

他に、それぞれのジャンルから意見ををお願いします。

(上田委員)

私自身放課後児童クラブの事務局に入らせていただく事になりました。今子育て支援課から説明がありましたが、保護者の理解が、便利になるとあることが当然だという認識になってしまって、後から入ってきた人にとって、そこに既にサービスがあるということでどうしても染まってしまうという課題があります。私自身も保護者になりますが、保護者と事務局が連携をとりながらニーズに合った保育をできるだけ進めていかなければと思っています。

(吉岡会長)

市の方からも何か応援があるわけですか。

(事務局・辻本課長)

はい。

(大原委員)

働く者、労働者の立場から言いますと、保育士不足が問題になっていると思います。待機児童解消

のために、子どもたちを受け入れなければいけません、保育士がいないと子どもを見れません。保育士の労働状況の改善も必要だと思います。

(吉岡会長)

保育士不足について、全国的な話として労働改善とか待遇に見合った状況を考えないといけないということが大きな課題になっていますし、保育士不足といって保育士を単に探しにいても改善されないという意見です。

(天根委員)

潜在的な保育士を探そうという発想で、保育士のお子さんを優先的に入所させたら保育士がたくさん集まったという話も聞きました。何か色々な方法を考えてみたらどうかと思います。

(吉岡会長)

養成校に奨学金を与えて卒業したら5年間働くようにしかけているというように、全国の自治体でも工夫しています。何か工夫をしなければいけないという、具体的な案が出てきても良いのではないかという意見です。

(事務局・井原)

保育士不足については切実な思いをしています。入所したいという方がたくさん申し込みに来られる中で、公立もですが、私立の園にももう少し受入をしていただきたいとお願いしているところですが、中々保育士が見つからない状況です。潜在的な保育士、資格はあるけれど家におられる方ができるだけ保育士として復帰できるような支援の研修会も年1回程度でありますけれど行っています。10名に満たないですが申し込みをしてもらっています。保育士になりたかったというあのときの気持ちを思い出したという感想も聞きます。すべての方が保育士になってもらっているわけではありませんが、少しずつ機会を捉えて保育士として活躍してもらっています。また、入所の申請をしていただく際に、自分の子どもを預けたら保育士として働けると言っていただける方もおられます。そういう方は必要度合いが高い形でポイント加算も進めています。このような場ですが、どうぞみなさん紹介いただいて保育士不足を解消できるように進めていきたいと考えています。

(喜多委員)

各課から説明いただいて、積極的に取り組んでおられることは十分に理解しています。取り組んでいる中で課題、各課で進めていく上で問題点があるかどうか把握されておられるかどうかを聞きたいです。もちろん予算的な問題はありますが、何が進めるにおいて問題があるか、保育士不足等ありますが、どういうふうに施策を進めるにあたり、どのような問題があるか話をいただきたいです。

企業内保育事業については、現在ありませんので、企業としても今後取り組んでいきたいです。

(藤田委員)

保育園側の意見ですが、保育士資格のある人が現在認可保育園の保育に携わっています。色々な考え方はありますが、子どもの人数に合わせて先生の数が必要です。保育士資格を持っていない人はカウントに入りませんが、子育てを終わった人もカウントに入れてもらえればと思います。2分の1

でも、それ以下でもカウントに入れることができれば、保育士不足はもう少し緩和すると思います。特に育児休暇、産前・産後休暇について園としてはその人も必要ですし、その時に代替要員の人を確保することが難しいので、そういうことを含めて国は考えてくれないかなと思います。

(吉岡会長)

何か樫原市として新しいことをやっていかないと待機児童解消は難しいというのが事実です。私の施設は養成校ですが、樫原市だけではなくほとんどの市町村から誰か保育士はいませんかとか、卒業した人でも良いので探してください等言われます。中々見つからないのが現状ですし、若い卒業生はフルで働きたいという気持ちがありますので、短時間で働くのは次の段階で、施設側と卒業生の思いがマッチしないという難しさを感じています。今言われたみたいに魅力等何らかのものがあっても良いのかなと思います。

(天根委員)

色々な考え方があると思います。

(伊瀬委員)

保育士不足については、大学、短期大学の段階になっての保育士確保の取組みは個人の感覚では手遅れで、現実的に考えますと高校に入ってそこから先の進学を目指しますが、保育士になろうという人がどれだけいるかというとはほぼ少なくなっています。命を守る取組み等市で行っておられ、中学校の中で10人くらいだと思いますが、職場体験があります。その取組みの中で性的な目覚めの話は重要ですが、家族とは何なのか、自分が歩んできた道のりは一人ではない、家族がいたからという事を踏まえた中で、子どもたちを育てる取組みが必要です。これについては教育も共通する点だろうと思いますが、そういったことを啓蒙する取組みが必要で、これについては保育業界一緒になって育てるといったことをしないと無理だろうと思います。

他の府県でやってきた事例ですが大学生、短大生をどれだけ集めて、バーベキュー等色々なことを行っても人が来ないものは来ないのです。そういう志を持った人を早い段階で、子育て、家族とは何だろうと提案しながら、こういった事をやれるから君たちの力が欲しいというメッセージを送らない限り来ないだろうと思います。

一方で私立の中高一貫校が保育士になりませんかといって進路指導するのもどうかなと思います。業界自身が地域社会に貢献するとはどのようなことだろうか和我々も努力し、示さなければいけないし、行政の方の支援もいただきながらの取組みが必要です。

現実的に人手不足で困っていますが、ありがたいなと思っているのは私の園を卒園するだけではなく、中学校の職場体験をされた方が短期大学、大学に行って保育実習を受けてよかったと言っている際です。そういう根本的な取組みをもっと積み重ねていかないと難しいです。

もう一つは、保育に従事される方々が自分の子どもを大切に育てたい、家族を大切にしたいというのは当たり前ですが、小学校に進級する際に、園からこれ以上働いてもらいたいとお願いするのは、切ない気持ちになります。保育士の処遇形態を弾力的に考えなければいけません。一番職員が困っているのは小学校に進級する段階、その時に延長保育担当として保育士として入ったり、保育士が主任的な立場になっていくと取りまとめをしなくてはならなくなったりし、その場合帰りが6時になったりし、放課後児童クラブが開いていないという状況になり困ります。そういう状況下で、お子さんが

ノイローゼになった時があり、社会的な部分で解決しなければなりません。我々だけでは解決できない保育士不足の問題があり、労働状況においては、保育士は休みを必要とし、切り替えの時間が要ります。幼稚園は春休み、夏休み、冬休みがありますが保育所は365日とは言いませんが、コンビニエンス的な勤務となっているのも現実です。何らかの力添えが必要です。

(吉岡会長)

色々ヒントになるような保育がたくさん出ています。次回、より具体的なものが見えてくれば実効性が見えるのではないのでしょうか。参考にしていただけたらと思います。

(亀甲委員)

保護者の意見から言いますと、待機児童の話があり、市は平成29年度中の0を目指して進めているとの事ですが、これから人口減少になる中で、保育ニーズと言う部分で、保護者がどこに保育の場所を求めているかを捉える事も大事だと思います。仕事に行く中で、本当はこちらの保育所に行きたいですが、こちらしか空いていないというような状況もあります。待機児童を0にすることも大事ですが、ニーズもしっかり捉えていただいて、どこに必要なのかを考えてもらうのも重要で、保護者の方からそういう意見を聞いています。

(米田委員)

私は、自治会を主導と言いますか、安全を守る立場にありますので、保護者とか学校の先生等に対して要望をいただけたらありがたいです。あと、人数での記載がありますが、率が分かりにくいので言葉を加えて示していただけたらありがたいです。

(吉岡会長)

今後資料整理の中で、多い、少ないが分かるよう、それを反映した表記の仕方をお願いします。

(辻之内委員)

歯科の立場ですが、小児歯科の中では、子どもの口の中を見ればその家の環境が分かると言われていています。例えばネグレクトとかされている場合は分かると言われていています。私は市の方に1歳6ヶ月、3歳半健診に行かせていただいています。だいたい来られる人は子どもに関心をもってきれいな歯をしています。対象年齢の人に通知を出しますが、100%熱心な人が来られます。来なかった場合、どのような対応をしていますか。

(吉岡会長)

おおぜい来たというだけでなく、その辺りの追跡調査とか指導などはどうなっていますか。

(事務局・岸本)

1歳6ヶ月、3歳半の健診の受診率ですが、平成27年度はそれぞれ96%、93%で90%台の方に出ています。来られない方についてですが、電話番号が分かるところにつきましては、電話でどういう状況かお母さんに確認します。その時にどういう問題を抱えて来られないのかということもお聞きします。必ずしも消極的に来られないというよりも、違うところに引っ越されているケ

ースもあります。電話時にお母さんと親子の状況の把握もしています。電話でも連絡がつかず、つながりが分からない場合は、こういう事業を行っていますからご連絡を下さいという勧奨葉書という手紙での紹介も行っています。3ヶ月、10ヶ月、1歳半という節目がありますので、3ヶ月で来られなくても、10ヶ月で確認、10ヶ月で来れない場合は1歳半で確認する等、漏れることのないよう手厚く情報収集に当たっています。

(藤田委員)

実際健診に行かなかったというケースを聞きまして、全員健診を受けているものと思っていました。後から聞いていただいているんですね。

(三浦委員)

小児科医として、福祉の健診とこども園の園医として携わっていますが、常に思うことは、待機児童の問題がよく出て、樺原市は一つのこども園を大きくしようとします。財政的にはその方が負担が少ないのであらうと思いますが、大きなこども園になればなるほどこの時期になるとインフルエンザなど感染症の流行が大きくなります。私立でも大きな園の方が感染症の流行が大きく、小規模な保育所の方が比較的少なく思われます。大きな園でも感染症が出ませんと言われることもありますが、私の携わっている第4こども園も今後増員すると思いますが、健康を見ておられないわけではないですが、大きくなればなるほど、子どもの健康から見ると良くない状況であると常々思っています。

予算があるのならば、一つ一つ小規模とは言いませんが、200人になるとおそらく保育士を増やしても全員までは目が届かないと思いますので、もう少しそここの大きさの園を増やせたら良いのではないのかと個人的に思っていますが、それは難しいのかなと思います。大きな園を造ってしまうと一つの病気が流行るとものすごく流行ってしまいますので、子どもの健康から考えますと、小規模とは言いませんがそここの園にされる方が良いと診療しながら思います。

(吉岡会長)

健康という医者の方の立場、就学前の子どもの生活する場所という違った観点から意見を言っていました。増やすと言う話も先程出ていましたから、市の方針の中で考えていく話だと思います。

(森田委員)

育児サークルの会議が午前中にありました。育児サークルは就学前の親子が集って活動しているのですが、年末にナビプラザが火事になり、そこを利用していた人が怖い目にあったそうです。火事によりそこが使用できなくなったのですが、あるのが当たり前で、クローズになって行く場所に困った等聞きました。年末年始だったのでいつもよりあまり影響はありませんでしたが、楽しみにしていた企画が頓挫した等のお話も聞きました。クローズになった事であるのが当たり前ではなくて、他にも幼稚園を使用させてもらえたらという意見も出ていました。サークルを一つの地域でやってもらえすと、公民館とか幼稚園とか貸してもらえる選択肢があります。これに対して一つのサークルの中で色々な地域から来られていた場合、中央公民館くらいしか貸してもらえませんが、中央公民館の利用率が高く中々借りれない現状です。白樺町から来られている人がおり、白樺幼稚園を貸してもらえないかというご意見もあり、人数が少ない園を借りれないかというご希望がありました。

一時預かりについても一つ増えるとの話ですが、今井保育所の人気が集中していて電話予約を取れ

ず行けないという話を聞いています。車をお持ちの方は他の園に行けるという選択肢も増えますのでありがたいです。

園庭開放について、昔は預かり保育が無かったので、園長先生の采配で保護者がついていればいつでも使える状況でしたが、一時預かりがあるがために日にち・時間等の制約ができたと聞きます。4時までしか駄目だとか、夏はもっと遊びたいというのがありますので、現実的にはどうなっているのか教えてください。

あと、企業内保育についてどの程度進めているのか、どここの企業とタイアップしているのか具体的に教えてください。

(吉岡会長)

質問が色々あり、答えられる部分があると思いますが。まず企業内保育について教えてください。

(事務局・溝上)

企業主導型保育事業について、あくまで認可外保育施設ということになりますが、^{きと}檀原の郷さんが、平成29年4月1日からスタート予定です。定員15名とお聞きしています。あとは、市の直接の管轄ではありませんが、大きな施設に対して、国の事業でこういう事業が始まりましたと紹介させていただいて、施設として考えていただけるのでしたら具体的に支援していきたいと考えています。

(森田委員)

広報などでアピールされるのですか。私はこの会議に出たから情報は得ましたが、一般の方はどこで知ることができるのですか。

(事務局・井原)

企業主導型保育事業がどこで行われるのかについては、今後4月1日以降になりますが、子育て情報パンフレット等に掲載して案内していきたいと考えています。

(亀甲委員)

企業内保育の話が出ましたが、企業主導型保育とは違うのですか。地域枠があれば認可外が認可化されるのですか。また、補助は出るのですか。

(事務局・井原)

今お話しているのは企業主導型保育事業のことです。地域枠を設定しても認可にはなりません。

(事務局・溝上)

認可外ではありますが、国の第三者機関から直接補助は出ます。

(小西副会長)

民生委員の方から健康増進課に話が固まってからお願いしようと思っていましたが、奈良県で今絵本を作っています。5月末にできる予定です。何故絵本を作るかというと、子どもの虐待等が多く発

生していますので、親子のスキンシップという形で絵本を作って親と子どもの絆を深めてもらおうということです。健診の際に、お母さんが来られたときに絵本を持って帰ってもらおうと考えています。3万冊程度で作成を予定してまして、健康増進課に相談に行かないといけないと思っています。

あと主任児童委員は0歳児から18歳未満の方を活動の対象としています。各課子どものことに対して何かありましたらその地域の主任児童委員、民生児童委員にも声がけしてできるだけ虐待等が発生しないようにしなければなりません。民生委員には情報が入りにくいのですが、放っておくわけにはいきません。新聞等で虐待の話も毎日のように取り上げられています。毎月行っていますが、子育て支援課から榎原市の現状を地域の会長に報告していただいています。また、そこから地域の民生委員に報告してもらうような活動をしています。また、以前も母子手帳を交付する際に、子育てについて不安を感じるときがあれば民生委員に相談をして欲しいと話をした時もあります。地域によっていき方は違うのですが、民生委員とお母さんとの信頼関係が第一です。絵本について、榎原市の子どものためにもお母さんのためにも知っていただくのが大事ですのでよろしくお願いします。

あと何かにつけてお金が必要になりますが、予算に限りがあります。今まで保育士をそれ程必要としていなかったのですが、このところ待機児童のことが多く言われてきているようになってから保育士を確保するのに苦労されているということは新聞紙上で知っています。国会でも保育士の処遇改善、給料を上げることも話題になっています。

(事務局・竹本)

先程質問いただいた園庭開放の時間等について、市立の保育所に限ってですが、平成24年度に3箇所こども園として、平成26年度に2箇所、現在5箇所で開催していますが、こども園になったときにどういう形で合体させれば保護者や利用者にとって利用しやすいか、長い間話し合いを重ねてきました。その中で保育所の機能と幼稚園の機能を行き来等すべて網羅できれば良いのですが、中々難しい現状もあった中で午後4時までという事で話が落ち着きました。その理由として保育所のお迎えの一定の時間が午後4時30分で、遊んでいただいている保護者と保育所のお迎えの保護者が重なる時にどれだけ安全性を確保して遊んでいただけるかと考え、最大限午後4時までに利用していただいたらどうかという経緯があって午後4時までになりました。今委員さんが言われたように夏は日が長く、世間では午後4時はまだまだ明るいと思われそうですが、こども園の行っている事業の一つですので全体の流れとしてご理解いただけたらと思います。単独の幼稚園10園についてはそれぞれの園の特徴を活かしながらやっていますので ご理解いただけたらと思います。

(森田委員)

単独の園について、午後4時とお聞きしたのですが。

(事務局・戸田)

園によってそれぞれで、園長の裁量となっており、行事のこともありますので園によって違います。

(吉岡会長)

森田委員も言われたように市民に趣旨が伝わっていない、理由があるのだろうけれど伝わっておらず、ばらばらでどうなっているのだろうということが起きているのだと思います。情報を伝える方法を考える必要があります。それぞれの園で園長からきっちり話すことが必要かも知れません。

(事務局・竹本)

一度だけでなく、年度の初め等に丁寧に伝えていきたいと思います。

(森田委員)

「市立幼稚園 子育て支援活動」の一覧について、学校教育課で作っておられると思いますが、園の特徴が記載されていて園庭開放の欄も時間も記載されておりきちんと見ていなかったかもしれません。

(事務局・竹本)

その一覧については、縦長の用紙で示していますが、丁寧に伝えていきたいと思います。

(吉岡会長)

数でクリアできるようにと思いながら、保護者にとっては待機児童解消になって良いですが、そのための施策を市は考えますが、保育の質についても考えなければいけません。子どもにとって育つ環境も含めて0にしていけないといけないと思います。建物を建てるばかりでそこを利用する子どもが生活できるのかという質の話も検証の中で話していただきたいです。例えば地域型保育事業、事業所内の保育所ができるとお聞きし、小規模保育についても公園がある場所で等記載されていましたが、事業を行う上でクリアしなければならない条件、環境はありますか。

(事務局・溝上)

2歳児以上の受入には園庭が必要になります。必ずしも施設内に設ける必要はなく、近隣にあっても良く、寺社の一角でも良いのですが、要件が整わないということがあります。絶対条件ではないですが、3歳児以降の受入施設も必要になります。小規模保育事業は0から2歳児を受け入れる施設になりますが、卒園されてから行き場のないような状況にならないことが必要です。

(吉岡会長)

私が思ったのは、全国的に小規模保育事業が進んできていますが、他の地域の状況をみると小規模保育を認めるに当たって、部屋の状況とか給食の状況がどれだけ認可保育園に近いような条件が満たされているのかという審査を厳しくすべきです。近くに公園があつたら良いとかいうのではなく、それが質という部分であり、最低限色々な基準が必要であり、橿原市としてどうなのかなと感じました。今後、ある程度の基準を決める必要があると思います。

(事務局・竹本)

児童福祉としての最低基準があり、認可保育所と同じだけ条件をクリアしていただかないと小規模保育事業は成り立ちません。公園だけあれば良いと理解しているわけではありません。

(吉岡会長)

その辺りも制度的に考えて、数を増やしていくならば質を考えて、先程大きくなれば良いのかという問題も含めて子どもの育つ環境も考えて、数の解消だけを考えていてはいけません。次回その辺り

も検証してください。

(事務局・竹本)

事業の中で、より質の高い保育・教育を提供しなさいという目標がある以上は避けて通れません。

(小西副会長)

一つ教えていただきたいのですが、橿原市で保育所を建てるにつけて、近所から子どもの声がうるさいとか問題が発生していませんか。起こっていなければ良いことですが、問題等が発生している地域も多くあるとお聞きしています。

(事務局・竹本)

今のところそういうご意見はどこからもお聞きしていません。

(伊瀬委員)

公立はないそうですが、私立にはあります。昔は車で通園されなかったのですが、昨今車で通園される方もいます。私の施設には駐車場が無く、ご近所からすごく怒られます。最近近隣で駐車場を借りることができるというお話もあり、使用させていただくと住民の方と仲良くなっていけるのかなど思ったりしています。奈良県に対しての話ですが、今後橿原市の力もお借りしないといけないかもわかりません。

(小西副会長)

あまりにも最近自分勝手なこともありますし、子どもにとって施設が少ない、それでいて保育所を建てようとするとうるさくなる等言って、地元のエゴもあり大変だと思います。特に行政は大変だと思います。

(天根委員)

保育所だけでなく、子育てでいう範疇からすると、奈良県だけではないですが、小学校が運動会をするときも、何で曲をかけないのかということ、近所から苦情が出るからです。曲をかけて走り回る、それが出来ない学校があります。高等学校あたりでもマイクで放送するとやかましいと言われます。学校が先に建ってあとから住宅ができて学校に苦情がきます。大人が教育をアピールしていく必要があり、みんな育ってきた、子どもが騒いでいたらにぎやかで良いなという発想が、やかましいとなってしまいます。行政の責任ではなく、みんなの責任であり、こういう世の中を変えていく必要があります。送り迎えの時も子どもさんを迎えに来ているので済む話が、済まなくなる場合があります。

(伊瀬委員)

保護者の方ももう少しと思うケースがたくさんあります。仲立ちになっている我々園も板ばさみになる場合もあります。

全体を通じてですが、例えば、NO5「幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校との連携の推進」について、NO1「教育・保育の推進」にも記載されていますが、平成30年度教育指導要領が変わり、合わせて保育指針も変わり、認定こども園の保育・教育指針も変わります。一番重要なこ

とは、小学校との接続の部分が問われていることもあるだろうと思います。私の園は認定こども園ですが、小学校とのカリキュラムの接続を相談する場、それぞれの保育園、認定こども園と小学校が意見交換ができるようになりたいと切実に思います。小学校の先生とお話しするには教育委員会の判断をいただかなければなりません。何らかの指示を出していただければと思います。奈良県もそうですし、橿原市も策定されましたが、奈良県においては平成27年度教育大綱が策定されました。この中で乳幼児教育という言葉が入っています。乳幼児教育と小学校教育との接続が記載されていますので、なるべく早い段階で、例えば平成29年度中に耳を傾けてもらえる環境を整えていただければありがたいです。

認定こども園の補助金を申請する中でも小学校との接続に関する項目があります。志はあるのですが我々だけではできず、是非とも学校教育課の方に聞いてもらいたいです。それが結果子どもたちのためにもなりますし、その先にもつながるだろうと思います。本当はそういったことも一緒にやりたいですが、東京都の場合ですと、就学前の子どもたちの教育プログラムが0歳から描かれたものがあります。そういったものも踏まえて、我々保育団体も含めて教育委員会の皆さんとお話ができる環境を是非作っていただければと思います。この資料の中でも教育・保育の部分が少ないので、そういった部分もご検討いただければと思います。

NO7「時間外保育事業（延長保育事業）の充実」について、私の運営しているこども園でも声が上がっており、公立の保育所でもそうかと思いますが、現実的な国の基準では現在の運営では法令違反に近いような部分があります。県内ほとんどだろうと思います。国の基準からいくと納得できない部分があります。標準時間認定のお子さんが増えたということがあるのですが、もう一つは延長保育を行っていくことによって、保育士の労働時間が非常に大きいという問題があります。シフトで言いますと、朝7時から勤務されていて、終わりが夜7時になっており、11時間労働ということはなく、36協定を結んだ中で働いてもらっていますが、その変則勤務が中々しんどく、保育士になりにくい原因の一つでもあります。そこを何らかの譲歩を考えながらうまくニーズと供給する側のスタイルを改善していかなければ難しいと思います。延長時間の間だけ勤務していただく方は中々いません。ある市町村では一般的な保育に携わるパート保育士に比べて延長保育に携わる人の賃金を1割増しして、人を確保しているところもあると聞いています。お金が欲しいと言っているわけではありません。むしろ地域の方々のお力を借りたいと切実に思っています。6月の第1回子ども・子育て会議でもお話ししたと思いますが、地域の自治会の方々の力をお貸ししていただき、是非延長保育のサポートをお声掛けしていただければありがたいです。自転車で通える範囲でしたら、2、3時間の勤務であれば、力添えもいただけるかと思っています。

NO10「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の充実」について、共同保育の考え方が難しいという話がありました。もしかしたら、サービスが行き届いたといたら語弊がありますが、あるのが当たり前だと思っている保護者がおられると思いますがこれが現実だと思います。その辺りを批准することが難しいのが現状ですし、我々園の方もどんどん保護者にどうやって小学校に上がっていくかをお話ししないといけません。

保護者の方々が、先日校区（自治会の中）で放課後児童クラブを立ち上げていくお話を聞いていたことがあります。遅い時間帯、お子さんをお迎えに行く時間が夜6時半から7時になってしまうケースがあります。社会福祉法人に勤務されている場合は、高齢者施設ですと突発的に、おじいさん、おばあさんを見なくてはいけない状況が生じます。そういったことに対応できる施設がありがたいというお話がありました。7時くらいまで施設を開けて欲しいという声も強くあると思います。その辺り

は園のスタイルもありますが、保護者の目線からすると慣れてしまっている現実があり、実際の就労形態を考えると大きな問題であるかと思います。

NO8「病児・病後児保育事業の充実」について、病児、病中、病後あるかと思いますが、その時に保護者が、子どもと仕事と子育てとどう関わるかについて、奈良県立医科大学が平成29年度の研究テーマで何か調査をされるとお聞きします。せっかく橿原市に県立医科大学がありますので、また何かコラボレーションされるのも一つかと思います。

NO34「休日夜間応急診療所の体制」について、私の園の保護者でも休み中に病気になった時にどうしようという声を聞きます。その際、休日夜間の診療、医療について情報提供をさせていただいています。保護者の方々からすると非常に安心しますというお声があり、機会があれば思いをお伝えしたいと思っておりましたのでこの場を借りて保護者の思いをお伝えさせていただきました。

あと、74施策の中で、子育て支援新制度もありますし、もう一つ教育指導要領等の改編も大きくありましたが、最終的には、介護でいえば地域包括支援システムもありますが、将来的には子育て人育て地域包括支援システムみたいなことを地域で考えていかなければいけないと思います。どこで誰がというよりも就学前、出産前の時期の施設もありますけれど保育所、幼稚園、小学校、中学校が人を育てていく仕組みになっていかなければなりません。そういったことを行政の方からご教示いただけたらと思います。

あと、私の園には300人余りの児童がいますがご他聞にもれず、正直子どもを見れていないのではないかという不安感があります。やはり200名以下でないと現実的には運営が難しいです。それができない場合は分園化していく、もしくは年齢によって育てるエリアを考えていくことが本来かなと思います。

そういうことを丁寧にしていかないと家庭は空っぽになっていく状況です。そうなった時に子どもたちをどう支えていくか真剣に考えないと地域が崩壊していくと思います。是非子ども・子育て会議が考える場としてつながっていくようなればと思います。是非お考えいただければと思います。

(吉岡会長)

最初の話であった接続の問題は、教育委員会の方もおられますし、幼稚園と小学校はどこでもやりやすいという話はよく聞きますが、もっと総括的に、就学前の教育とどうつなぐかという視野で考えていただきたいということです。施策NO1の公開保育をやって成果があったと掲げているので、せめて来年度から例えば子ども・子育て会議委員に案内状を送っていただいて時間があれば見せていただく機会もあったらこの会議での話も具体的になるのではないかなと思います。せっかく公開だからそういうこともあっても良いかなと思います。最初に聞きながら思っていました、差支えがなければ、保育園、幼稚園、私立、公立お互いを見て課題が見えてきます。立場の違う保育、教育だけではなく先程のお医者さんの意見も聞きながら違った観点での課題も見えてきます。必ず行けるかどうか私も分かりませんが情報があって良かったら来てくださいということがあれば、次の会議に活かせるかなと思いますので、差し障りがなかったら検討してください。

(2) 教育・保育と地域子ども・子育て支援事業の進捗状況について

事務局 資料2について説明

(吉岡会長)

量の実績報告について説明がありましたが、何か質問があれば、窓口の方へお願いします。窓口はどこですか。

(事務局・溝上)

事務局、こども未来課にご連絡いただければとりまとめをさせていただきます。

(吉岡会長)

全体的には具体的に説明していただいて論議したいという話が出ていたと思いますが、今後のご検討をお願いします。

(3) その他

(吉岡会長)

では、その他について事務局ございませんか。

(事務局・吉田)

その他はありませんので、次回の会議の日程についてお知らせします。

5. 次回の会議の日程について

平成29年7月13日(木) 午後3時～(決定)

次回の案件について今回同様事業の進捗状況をお示ししますと共に、平成29年度が子ども・子育て支援事業計画の中間年度にあたりますので、市民の方に子育て支援事業についてアンケート調査を実施しようと考えています。アンケート調査の内容、質問項目等の素案をお示ししたいと考えています。よろしくお願いします。

6. 閉会